

中川農林水産大臣のオーストリア、スイス及びブラジル出張の概要

平成18年5月
農林水産省

1. 日程:平成18年4月27日(木)～5月7日(日)
2. 随行者:木下農林水産審議官、村上大臣特別補佐官、大杉国際貿易機関室長 ほか
3. 結果概要:

オーストリア政府関係者との会談概要

プレル農業大臣との会談(4月28日 於:オーストリア・ウィーン)

- ・ WTO農業交渉に関し、プレル大臣からは、EUは既に農業分野で動きを示しており、米国が国内支持、ブラジルがNAMA、サービスで動きを示す必要があるとの認識を示した。
- ・ G10とEUは、交渉で共通の目標を持っており、互いに協力し合っていくことが重要である、との認識を共有した。

WTO貿易交渉委員会、関係閣僚等との会談の概要(於:スイス・ジュネーブ)

(1) 貿易交渉委員会(TNC)(5月1日)

- ・ 冒頭、ラミー事務局長から、重要課題にできるだけ早く合意し、農業とNAMAのモダリティを数週間の単位で確立する必要性を強調。
- ・ ファルコナー農業交渉議長からは、参照ペーパーを通じて徐々にコンセンサスを形成し、テキストに発展させていきたいとした上で、各国が自国のボトム・ラインをより真剣に考えることが必要と発言。
- ・ 我が国からは中川農林水産大臣が出席し、今次ラウンドにおける開発、特にLDCへの配慮の重要性を強調しつつ、開発イニシアティブの取組を紹介。また、膠着状態を打開するためには、まず攻める側が譲歩すべきである旨主張した。

(2) ラミーWTO事務局長との会談(5月1日)

- ・ 開発問題に関し、我が国の開発イニシアティブ、貿易のための援助、IF (統合フレームワーク) 等について意見交換を行った。
- ・ WTO交渉の今後のプロセスに関しては、中川大臣から、各国の政治情勢や主要閣僚の交代の動き等を踏まえると、7月末までに目途を立てないとラウンド終結は難しくなるとの考えを紹介。
- ・ ラミー事務局長からは、7月末を逃すと全体が2～3年凍結してしまいかねない、今後、農業とNAMAについて、6月中旬までに方向が出ている必要がある旨発言。
- ・ なお、ラミー事務局長からは、上限関税は主要なものではないが、「料理の最後に味を調整するコショウのような存在」であるかも知れない、との考えが示されたが、中川大臣からは、上限関税には反対であるとの我が国、G10の立場を改めて主張。

(3) ヴェйл豪貿易大臣との会談(5月1日)

- ・ 各国の政治情勢や主要閣僚の交代の動き等を踏まえると、農業とNAMAのモダリティ確立が本年後半にずれ込むと、交渉全体が大きく遅れるおそれがあるとの点、ジュネーブでの農業交渉会合プロセスと併せ、政治レベルの関与が重要である点で認識が一致。
- ・ 中川大臣からは、交渉を前進させるためには、強い立場にいる側が率先して譲歩する必要がある旨強調。

(4) ファルコナー農業交渉議長との会談(5月2日)

- ・ ファルコナー議長から、米国が国内支持をどれくらい削減できるのか、EUが市場アクセスでどれくらいできるのか、NAMAについてどういうバランスを取れば良いのか、が問題であり、交渉の進展のためには、ジュネーブでの農業交渉会合プロセスと並行して、政治レベルでの決断が不可欠である旨の発言。
- ・ 中川大臣から、交渉の進展に向け、日本として貢献していきたい、議長には是非頑張ってください旨の発言。

(5) ポートマン米通商代表、シュワブ次期代表、ジョハンス農務長官との会談(5月2日)

- ・ ポートマン代表から、ブラジル等がNAMAにおいて前向きな態度を示すためにも、EU、日本が農業の市場アクセスで積極的に更なる動きを見せることが交渉全体の進展にとって効果的である旨の発言。
- ・ 中川大臣からは、他のメンバーが動くのであれば成功のために貢献する準備

はある、NAMAについては自分の所管ではないが、全体をよく見ながら、農業の仕事をしていきたいと考える旨発言。

- ・ 米国産牛肉輸入問題については、米国側から、議会を含め米国内における厳しい状況が説明されたのに対し、中川大臣からは、日本側の厳しい状況を説明するとともに、米国内での飼料規制やサーベイランスについての的確な対応を求める等、率直な意見交換を行った。
- (6) このほか、ダイス・スイス経済大臣との電話会談、G10各国大使、アフリカ・グループ各国大使、G33主要国大使との意見交換を行った。

ブラジル政府関係者との会談概要

(1) フルラン開発商工大臣との会談(5月4日 於:ブラジル・ブラジリア)

- ・ フルラン大臣から、バイオエタノールを巡る国際情勢やブラジルの取組等を説明。特に、再生可能であること、クリーン・エネルギーであること、ガソリンより安価であることという3つの利点があることを強調。
- ・ 中川大臣からは、エタノール輸出はNAMAの範疇になるが、NAMA分野の交渉で柔軟な対応をすることが、ブラジルのためにもなるのではないかと指摘した。

(2) ロドリゲス農務大臣との会談(5月5日 於:ブラジル・サンパウロ州リベロンプレット市近郊 ロドリゲス大臣農場)

- ・ ロドリゲス大臣から、日・ブラジル二国間の農業協力の一環として、バイオエネルギーを世界に広げていくための協力を行っていききたい旨発言。これに対し、中川大臣からは、バイオエネルギーを含む両国の農業問題について話し合いを行う日・ブラジル農業大臣会合を毎年開催することを提案し、ロドリゲス大臣もこれに同意した。
- ・ また、ロドリゲス大臣からは、肉や果実の輸出促進の観点から、検疫の専門家受入れの要請があったほか、WTO交渉に関しても、よく話し合っていきたい旨の発言があった。

(3) このほか、アモリム・ブラジル外務大臣との電話会談を行い、WTO交渉の今後の見通し等について、率直な意見交換を行った。